

いき
粋

富岡 勝則

皆さんこんにちは。

うっとうしい梅雨の時期がやってきました。気温の差が激しい日もあり、私も1か月ほど風邪が長引いて大変な思いをしました。皆さんも、健康管理には十分注意していただきたいと思います。

さて、皆さんは、「江戸しぐさ」というものをご存じでしょうか。江戸時代、江戸の町は全国各地から大勢の人々が集まり、百万人もの人口を擁する世界でも最大級の大都市でした。そしてそんな人口過密な江戸の町が、いつまでも平和で、異なる文化をもった人々の間でトラブルが起きないよう、お互いを尊重しつつ、皆が気持ちよく生活をするために生み出された庶民の知恵、他人のための心づかいの所作の数々が「江戸しぐさ」と言われています。（「しぐさ」は、「仕草」ではなく、「思草」と書くそうです。）

昨年私は、市内の小学校で「江戸しぐさ」に取

り組んでいるという話を聞き、その小学校で「江戸しぐさ」の授業を見学させていただきました。

例えば、雨の日に傘を差しながら人とすれ違うとき、相手と反対のほうへ傘を少し傾けることで、相手に傘がぶつからず、しずくをかけないように配慮することを「傘かしげ」と言います。また、後から来た人が席に座れるよう、こぶし一つ分ずつ奥から順に詰めて1人分の席を作ることを「こぶし腰浮かせ」と言います。これらは、たぶん皆さんもテレビの公共広告機構のコマーシャルでご覧になったことがあるかも知れません。私が参観させていただいたときは、上級生がいろいろな「江戸しぐさ」について学び、次にそれを下級生に教えながら、お互いに他人への気遣いの素晴らしさを理解し合っていたようです。5年ほど前から取り組みを始めた都内の中学校の周辺地域では、「道を広がって歩く子どもが減った」とか、「あいさつをする子が増えた」など、すでに良い影響が現われてきているようです。現代は、物質的な豊かさは江戸時代とは比べ物にならないほどですが、心の豊かさや思いやりは昔の方がもっと深かったのではないのでしょうか。私たちもそのころの日本人のように「粋」な心づかいを取り戻し、思いやりを持って生活するようにしたいものです。

それでは、また。

朝霞市は男女平等を進めています

—DV(ドメスティック・バイオレンス)を知ろう②— —DV今昔—

日本の女性は、永年、歴史的に風習化されてきた性差別的な社会構造の中で、忍従することを強いられてきました。男性は家長としてのリーダーシップと責任を果たし、女性はそれに依存してきました。近年、女性が社会に出て働く時代になっても、男性優位の意識は、変わっていないようです。社会環境がますます厳しくなる中、家庭の形態も女性の意識も変わってきました。自立していない男性が、ストレスをDVという形で、家庭の中で発散しているのかわとされるほど、より深刻なDVの件数が増えています。DV被害をなくすために、行政も市民とともにその対策に取り組んでいる昨今です。

*このコラムは、「朝霞市男女平等推進事業企画・運営協力員」との協働により掲載しています。

問い合わせ／人権庶務課 内線2255
☎048-463-2697（直通）



ひとの推移

人口	12万7,904人	(+ 600人)
男	6万5,561人	(+ 117人)
女	6万2,343人	(+ 483人)
世帯数	5万7,714世帯	(+ 598世帯)

平成20年5月1日現在 ()内は前月比

朝霞市有公共施設耐震化計画を策定しました

問い合わせ／財産管理課 内線2332 ☎048-463-0203（直通）

近年、新潟県中越地震や福岡県西方沖地震など、大規模な地震が頻発し、いつどこで大地震が発生してもおかしくない状況にあるといわれています。こうした中で地震発生時の利用者の安全を確保し、応急活動の拠点となる施設の被害を最小限に止めるため、公共施設の耐震性能を確保することが重要な課題となっています。

このたび市では、市の公共施設の耐震性能を確保するため、耐震化を計画的に推進するために「朝霞市有公共施設耐震化計画」を策定しました。

この計画は、平成18年度に実施した簡易耐震診断の結果、耐震判定が不合格とされた9施設（市庁舎・市民会館・保健センター・本町保育園・浜崎保育園・南朝霞公民館・東朝霞公民館・武道館・猪苗代湖自然の家）について、各施設の状況を踏まえて、平成20年から24年までに耐震診断・耐震設計・耐震工事を実施できるようにまとめたものです。今後は、この計画に基づき公共施設の耐震化を推進していきます。

なお、「朝霞市有公共施設耐震化計画」は、市政情報コーナー、市ホームページなどで閲覧できます。

